

2 講座・研修の様子

(1) 人材育成基礎研修

〔午前の部〕 講師：(株)トライローグ取締役 加留部 貴行 氏
進行：(株)トライローグ代表取締役 平山 猛 氏

◆ 高齢者人材の活躍の場づくりへの期待と留意点

加留部氏の動画による講義とワークショップをもとに、平山氏の進行で講義が進められました。

講師によるプログラム全体像の説明と参加者一人一人の自己紹介の後、はじめに、「あなたは何歳まで働きたいですか」「現職退職後の過ごし方を考える中に地域での活動はありますか」「働き続けるためにはどのような自分でありたいですか」などの問いをもとに、ペアで意見交換を行いました。



次に、高齢者人材の活躍が求められる背景と課題について、さまざまな視点での質問を投げかけながら動画による講義とワークショップを行いました。

講義では、高齢者人材の活躍が求められる背景等について、
①社会全体の「人不足」（生産年齢人口の減少は長期的に継続していることから、高齢者も「働き手」として期待されている）
②高齢者人材の出番（公的支援サービスではまかなえない「隙間」の増大や「自助」の限界により「共助」と「近助」の必要性が高まっている）、③健康寿命の延伸（「信頼」、「ネットワーク」、「人との関わりやつながり」などが日々の安心感や元気の源となる）の3つがあることについて学びました。



次に、高齢者人材の活躍の場づくりのアプローチと留意点について説明がありました。

講義では、早めにこれまでを振り返り、若い時から地域に関わることなどの重要性や、キャリア・役割転換への気持ちとスキルの準備を始めること、相手の自発性を引き出す環境づくりを行うことについて考えを深めました。

最後に、「相手起点で考える支援の姿」と題して、「これからの高齢者人材のための行政・社協の役割は何でしょうか」という問いをテーマに講義を行いました。

「人を管理して『育てる』だけでなく、人を支援して『育ち』を促す」ことや、管理と支援の本質的な違い、対話は「聴く」×「話す」であり、どちらかが0になると対話は0になってしまうこと、対話を通じた「関係づくり」などについて学びました。

〔午後の部〕 講師：(株)トライローグ代表取締役 平山 猛 氏

◆ 「ファシリテーションとは」「ワークショップデザイン」

ファシリテーションとは何か、ファシリテーションのポイントやファシリテーターの役割、ワークショップデザイン等について研修を行いました。

ファシリテーション

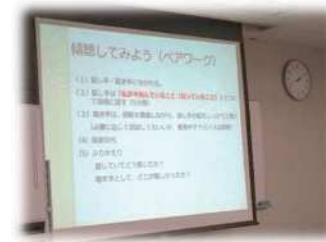
人々の活動が容易にできるように、人と人の関係性に働きかけ、うまく運ぶようにすること



はじめに、ファシリテーションが求められる背景には、従来型のリーダーシップとマネジメントでは限界があることや、組織を動かす3つの機能（ファシリテーション・リーダーシップ・マネジメント）があること、ファシリテーターは、対話の場づくりのための準備を行った上で、傾聴と質問で対話を促進し、発言を可視化して議論を整理する舵取りの役割であることを学びました。

次に、ファシリテーション演習を行いました。

話し合いの準備のために必要な「3つの視点」(①方向性【目的・目標・形態】 ②素材【情報・役割・時間】 ③場【空間・雰囲気・道具】)を学び、ペアワーク等による実践に臨みました。ペアワークでは、傾聴することにより、話し手の背後にある感情を理解し、気持ちを受け止める「傾聴受容」や、質問により話し手の意見を引き出し、内容を整理し話の論点を明確にする「論理把握」を意識しながら、質の高い聴き方を身につけるための実践を行いました。



次に、ファシリテーターの役割として求められる「ファシリテーション・グラフィック（議論を描いて整理する手法）」を学ぶため、3人1組になりワークを行いました。①1人のつぶやきを書き留める、②2人の会話を書き留める、③2人の対話を書いて整理するなどの方法を実践し、理解を深めました。



次に、2日目の人材育成実践研修に備え、「ワークショップデザイン（人と人がつながり、相互作用が生まれる対話の場をつくること）」について研修を行いました。

ワークショップ

参加者が自発的に作業や発言をおこなえる環境において、参加者の体験を通してアイデア創造や問題解決などを行う学びの場

グループ内での意見を可視化するためのワークを実施し、グループで議論するテーマの前提条件を揃えることで話がまとまりやすくなること、より話を広げ参加者の想いを引き出すことを意識して質問をすることが、納得感のある結論につながることを、ワークや発表を通して学びました。



(2) 人材育成講座

〔午前の部〕

◆ オリエンテーション

講師：鹿児島県社会福祉協議会 事務局

鹿児島県の高齢化率等に関する現状や、高齢化が進む中で地域の力を取り戻す必要があること、高齢者に多い困り事や高齢者の役割、目指したい姿について説明を行いました。

また、本研修が目指すものについて、これまでの取り組みの例をもとに説明し、参加者がお互いの強みを活かしながら、知恵を出し協力することが地域力を取り戻し、個人や地域の困りごとの解決に繋がることになるとの講義を行いました。



◆ ワールドカフェ

講師：(株)トライログ代表取締役 平山 猛 氏

ワールドカフェ（カフェのようなリラックスした雰囲気のもとメンバーを入れ替えながら行う会議）の手法を用い、1日目で学んだファシリテーション研修の内容を活かしながら、「地域活動で上手くいっていること」「地域活動で困っていること」をテーマに、様々なアイデアを出し合い意見交換を行いました。同じ地域に住む受講者だけでなく、別地域の受講者も含めた話し合いも実施しました。

最後にワールドカフェを通して感じたことを、同じ地域の高齢者、市町村社協・市町村職員で共有しました。



(3) 人材育成実践研修

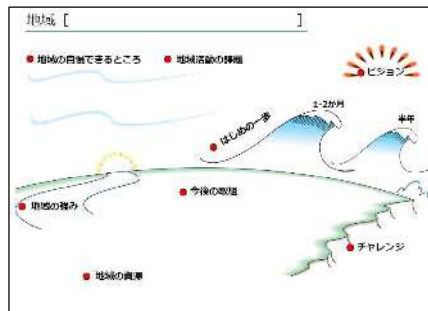
〔午後の部〕講師：(株)トライログ代表取締役 平山 猛 氏

◆ 地域の課題解決ワークショップ

地域ごとに分かれ、市町村社協・市町村職員がファシリテーターとなり、高齢者の思いを引き出しながらグループワークを実施しました。

まずは、『対話のテンプレート』を用いて「地域活動の課題」「地域の強み」などを出し合い、それをもとに「今後の取組」についてアイデアを出しました。次に『はじめの一歩のテンプレート』を用いて、『対話のテンプレート』の内容を振り返りながら、「1～2ヶ月後」と「半年後」の取組を具体的に計画し、グループごとに発表を行いました。最後に、地域でチャレンジしてみたいこと、5年後、10年度に地域がどのようにしてほしいかといった地域の「ビジョン」について話し合い、受講者で共有しました。

対話のテンプレート



はじめの一歩のテンプレート

はじめの一歩	
1～2ヶ月後の取組	半年後の取組
何卒 (What)	何卒 (What)
目的 (Why)	目的 (Why)
いつ (When)	いつ (When)
誰が (Who)	誰が (Who)
どこで (Where)	どこで (Where)
どうやって (How)	どうやって (How)



(4) フォローアップ研修

〔午後の部〕講師：(株)トライログ代表取締役 平山 猛 氏

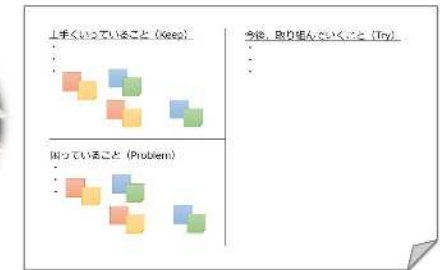


- ①実践研修で作成した課題解決に向けたアクションプランの進捗状況を確認する
 - ②現状の取組状況を踏まえて、新たに動けるようになる
 - ③地域の高齢者と行政・社協がさらに協力して取り組みを進められるようになる
- という3つの目標を掲げ、フォローアップ研修を実施しました。

◆ グループワーク

地域ごとのグループに分かれ、人材育成実践研修で作成した『はじめの一歩のテンプレート』を参考に、『ふりかえりテンプレート』を用いて、「keep (上手くいっていること)」や「P roblem (困っていること)」について書き出していきました。その後、他グループと情報交換を行い、再び地域ごとのグループで、「T ry (今後取り組んでいくこと)」について話し合いを行いました。

ふりかえりテンプレート



◆ 次の一歩と全体共有

作成した「ふりかえりテンプレート」を見ながら、グループとして取り組む「新たな目標」を決定した後、各自がそれぞれ取り組む「次の一歩」を考えました。最後に研修の成果をグループごとに発表し、感想を共有して研修会を終えました。



※市町村等による各地域の取組事例（アクションプラン実践事例）は、次ページ以降に掲載⇒